戰爭ノ實驗

第一號

千九百五年九月二十六日以降露國兵事新聞連載露國當局者諸氏ノ意見

參謀本部第一部

1433

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

戰爭ノ實驗　第一號

緒言

本編ハ今回ノ日露戰爭ニ參與セル某氏ノ寄書ニ係ハルモノニシテ編者ノ述フル所ニ依レハ本文中ノ被服、裝具及附屬品其他糧食ニ關スル意見ハ氏一個ノ意見ニアラスシテ國際ノ斷絶ト同時ニ戰爭ニ關係シ且重ナル戰鬪ニ參與シタル某師團ノ高級指揮官即チ師團長、師團參謀長、各聯隊長、砲兵旅團長及師團軍醫部長等ノ同意ヲ得テ決シタル意見トス且此等ノ問題ハ夫々聯隊ニ於テ豫メ討議セラレタル事項ナリト

本文

日露戰爭ナル年度ハ吾人ニ多大ノ經驗ト豐富ナル材料トヲ供給セリ是等ノ經驗ハ未タ以テ最後ノ決定ヲ與フルニ至ラサルモ吾人ハ總テノ場合ニ於テ自國ノ缺點ヲ蔭蔽セス平素ノ失錯ト偶然ノ錯誤トヲ指摘シ以テ實驗上習得シタル點ニ關シ必要ノ改良案ヲ建議セントス吾人ハ今左記ノ順序ニヨリ項ヲ別チテ記載セン

(イ)材料　(ロ)人事(兵卒及將校)　(ハ)戰術

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(イ) 材料

第一 兵器

(一) 今回ノ戰役ニ於テ我千八百九十一年式速射旋條銃ノ構造及彈道ハ充分滿足スルニ足ルコトヲ證明セリ今該兵器ノ微細ナル缺點ヲ擧レハ左ノ如シ

(イ) 連發射擊ノ後ハ遊底ノ開閉困難ナルコト

此缺點ハ銃ノ腔線ニ油若クハ水ノ二、三滴ヲ注入セハ除却シ得ラル

(ロ) 棚杖ヲ螺旋シテ棚杖孔ニ裝着スルノ不便ハ(銃床ノ乾縮及膨脹ハ緊密ヲ失シ又倉卒ノ際螺旋ヲ緊メルコトヲ忘却スルコトアリ)日本式ニ倣ヒ銃床ノ末端ニ發條機ヲ裝着セハ容易ニ除却シ得ラル

(ハ) 照星ノ脱落ヲ防ク爲メ動カサル樣之ヲ固着スルヲ要ス

(ニ) 遊底熱スルカ或ハ汚染シタルトキハ蹴子ハ藥莢底ヲ把持セサルコトアリ又蹴子釣破損スルコトアリ現用銃ハ棚杖短キ爲メ藥莢迸出セサル場合ニ之ヲ壓シ出ス能ハス又磨布ヲ有セサルコトモ珍シカラス其結果往々射手ハ射擊ヲ中止スルニ到ルコトアリ故ニ棚杖頭ヲ鑢磨シ此部分ヲシテ銃身ニ挿入シ得ル如ク爲サヽル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヘカラス

(ホ)我國ニ於テモ日本ニ於ケル如ク彈倉空虛ノ場合ニ於ケル射擊ハ擬裝ヲナシ遊底ヲ開閉セサルヲ可トス戰鬪酣ナル最中屢々裝塡セサル銃ノ射聲ヲ聞クコトアリ此事ハ甚タ不愉快ナリ

(ヘ)戰鬪中ハ負銃ヲナスコト爲ニ行ハル然レトモ負銃ハ鐵釣ヲ屈折シ下帶鈑環ヲ以テ彈倉機ヲ壓出シ其位置ヲシテ床尾鈑ト著シク離隔セシムルノ不利アリ

下士卒ハ左ノ方法ヲ以テ自ラ右ノ害ヲ除ケリ即チ革紐ヲ以テ二個ノ締係ヲ作リ其一ヲ以テ床尾鈑ノ背部ヲ結ヒ他ノ一ヲ下帶鈑環ノ位置ニ結ヒ付ケ是等ノ締係ヲ貫通シテ負革ヲ裝着スルニアリ

(二)彈藥ハ其性能良好ニシテ間然スル所ナシ又之ヲ隊ニ供給スルニ何等ノ困難ナカリシ

(三)砲(速射砲)ハ良好ニシテ命中、初速及射程共日本軍ノ砲ニ優レリ榴霰彈ノ効力モ良好ナリ又戰鬪間砲ノ破損モ僅少ニ過キサリシ

沙河ノ戰鬪ニ於テ砲兵第三十五旅團ノ砲四十八門ハ八日間猛烈ナル射擊ヲ連續セリ此間戰列ヲ退キタルハ僅カニ二門ニ過キス中一門ハ緊塞具ノ破損シタル爲

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

メニシテ他ノ一門ハ小砲架ノ傍ニ瓦斯ノ漏出ヲ認メタルニヨル砲彈ノ効力モ充分ニシテ又其補充モ滿足シ得タリ

砲彈ハ戰鬪ノ實驗ニ徵スルニ榴霰彈ノミニテハ充分ナラス猛烈ナル爆發力ヲ有スル榴彈モ亦頗ル必要ナリ

我着發榴霰彈ハ微弱ナル構築物スラ破壞スルノ力ナシ該砲彈ハ其口徑ニ適應スル圓形ノ破孔ヲ穿チ得ルモ小銃彈ヲ以テ侵徹シ得ル粘土壁ヲ破壞スルノ力ナク掩壕ニ對シテハ何等ノ効力ナシ

之ニ反シ日本ノ爆裂榴霰彈(下瀨火藥)ハ非常ニ有効ナルコトヲ實驗セリ現ニ千九百四年十一月日本ノ砲兵ハ歩兵第三十五師團ノ監視者カ北「ベズイミヤン」村ノ附近ニ於ケル獨立家屋ヲ使用シツヽアルコトヲ發見シ六十四發ノ下瀨火藥ヲ以テ僅カ一時間以内ニ此家屋ヲ粉碎セリ

掩壕ノ胸墻ニ對シテハ下瀨火藥ハ落角ノ關係上餘リ効力ナシ然レトモ確實ニ着彈シタル場合ニハ爆發ノ効力著シク殊ニ凍結シタル土地及土囊ヲ以テ構築セル胸墻ニ對シテハ有効ナリ

本年一月及二月中白揚樹林(羅馬屯)内ノ最前堡及鐵道堤上ノ堡壘ハ下瀨火藥ノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

爲メ屢々破壞セラレタリ

我軍ノ有セル少數ノ括塞子砲(Jokhnelie)ハ其環層榴霰彈ノ缺點ヲ補足セリ(重ニ士氣ノ點ニ於テ)然レトモ其爆裂ヨリスル人馬殺傷ノ効力ハ充分ナラス

(五)野戰臼砲ハ現時ノ如ク初速ト射程トヲ基準トセル砲兵戰ニ對シテハ不完全ニシテ且命中甚タ不充分ナリ故ニ臼砲ノ射擊ハ主トシテ榴霰彈ト共ニスル砲擊ニ使用セラレタリ

榴霰彈ハ初速、命中及士氣ニ及ホス點ニ就テモ前者ヨリ一層有力ナリ

將來ハ有力ナル爆發力ヲ有シ且短距離ノ射程ト野砲ノ如キ運動性トヲ有スル砲ヲ採用スルヲ可トス

該種ノ砲ハ野砲ニ等シク角度盤ヲ使用シテ射擊セサルヘカラス

(六)攻城砲ハ日露兩軍共ニ使用シタルモ其目的ハ同一ナラス我軍ニ於テハ野砲ノ榴彈缺乏シタル場合ニ之ヲ用ヒ日本ノ中央軍ニ於テハ多分左ノ目的ヲ以テ二月中之ヲ使用シタルナラン

(イ)友軍ノ攻擊ヲ援助スル目的ヲ以テ露軍ヲ中央軍方面ニ牽制スル爲メ

(ロ)射程及初速ノ優勝ナル露軍ノ野砲ニ對シ射程及初速ノ劣レル日本軍ノ野砲ニ協

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

力スル爲メ

(ハ)露軍ノ攻城砲ト對戰スル爲メ

(ニ)中央軍ノ野砲ヲ本攻擊ノ方面ニ移動シテ使用スル爲メ

前掲ノ目的ハ左ノ事實ニヨリ證明スルコトヲ得

(一)三月上旬敵ノ中央軍ニハ野砲ノ數甚少ク又其一部ハ三月六日「パンチ・エンプ」村ニ對シテ使用スル爲メ西北ノ「サフアンタイ」村ニ運搬セラレタリ

(二)我攻城砲ノ撤セラレタル以後「リンシンプ」ヨリ發射セル敵ノ十二珊海軍榴霰彈ハ一晝夜三乃至五發最早發射セラレサリキ

(三)彈片ニヨリ判斷スルニ敵ノ中央軍ニ於テハ寡クトモ舊式砲ヲ使用シ其內數門ハ口徑、裝藥及信管トモ一樣ナラサルモノヲ使用セリ

中央軍ニハ環層榴彈及黑色火藥ヲ裝塡セル四吋、二ノ海軍砲、黑色火藥ヲ使用セル六吋鑄鐵砲及爆裂榴霰彈ヲ採用セル十一吋砲ヲ有セリ

是等ノ砲ハ我軍中央軍ヲ攻擊シタル場合ニハ之ヲ遺棄シ我ヲ遼陽ノ方向ニ牽制シテ西方ニ於ケル乃木軍ノ任務ヲ容易ナラシメント企圖シタルカ如シ

是等ノ砲ノ目的ハ主トシテ露軍ノ士氣ヲ沮喪セシムルニアリシヲ以テ榴霰彈射擊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヲ爲サヽリシ爲メ露軍ノ受ケタル損害ハ僅少ニ過キサリキ

之ニ反シ性能良好ナル我攻城砲ハ共同動作ヲ缺キタル爲メ効力ヲ發揮スル能ハサリシ其一例ヲ擧レハ我攻城砲ハ地區司令官(師團長)ノ指揮ニ屬セラレサリシヲ以テ司令官或種ノ目標ヲ認メ之ニ對シテ發射セントスルトキハ特ニ許可ヲ受クルノ必要アリシカ如キ是ナリ

然レトモ唯一ノ例外ナキニアラス我第二軍ノ第十軍團ノ正面ニ於テ敵ノ防禦セル村落ヲ射擊シタル際ニハ偉大ノ効果ヲ收メ日本軍ハ單ニ我射擊ノミニテ陣地ヲ撤退セリ

理論トシテ野砲ヨリ一層口徑大ナル有力ノ火砲ヲ採用シ能ハサルニアラスト雖トモ大口徑砲ヲ野戰ニ使用スルヲ以テ原則ト爲スコト能ハサルハ今日モ尙ホ昔日ニ異ナラス今回ノ戰役ニ於テ日本軍カ野戰ニ大口徑砲ヲ使用シタル場合ハ水路ノ交通線ヲ有シタル九連城ト鐵道ノ利便アリシ奉天トノミニ過キス故ニ奉天ニ於テハ日本軍ハ冬期良好ノ道路存在スルニモ係ハラス彼等ハ終始鐵道線路附近ニ固着シテ之レヨリ遠方ニ離隔スルコト能ハサリキ遼陽及沙河戰ニ於テ日本軍ハ僅カニ重砲二門ヲ使用シタルニ過キス故ニ此一事ヲ以テ重砲ノ野戰云々ヲ喋々スルニ足ラ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ス

又攻城砲ノ價値ニ就テモ(假シ十一吋海岸砲ニテモ)敢テ重要視スルニ足ラズ假令ハ奉天會戰ニ於テ敵ハ四日間「ペズイミャン」「グアントン」及「ハンチエンプ」村ヲ砲擊セリ然レトモ我軍ノ退却シタルハ敵ノ攻城砲ニ苦シメラレタルカ爲メニ非ラスシテ總司令官ヨリ奉天棟兵場ニ退却スヘシトノ命令ニ接シ任意ニ撤去シタルモノトス

堅牢ナル沙河ノ陣地ヲ撤去シタルハ迂回運動換言セハ機動ノ爲メニシテ毫モ敵ノ砲火ニ餘儀ナクセラレタルニアラス

重砲ノ事ニ就キ吾人カ斯ク喋々スルニ到リタルハ滿洲軍總司令部ニ於テ野戰ニ於テ該砲ヲ必要トスルノ意見屢々生シタルカ爲トス

(四)機關砲ハ偉大ナル價値ヲ有セリ我軍隊ハ該砲ヲ以テ野砲以上ノ効力ヲ有スルモノト認容ス而シテ該砲ハ之ヲ聯隊ニ配屬セスシテ十二乃至十六門ノ一隊ヲ特設シテ師團ニ配屬スルヲ可トス而シテ日本ノ銅製挿彈鈑ハ(三十發宛)射擊ニ故障ヲ生スルコトナキ故我國ノ布製ノ彈帶ヨリ良好ナリ

歩兵ニハ携行機關砲ヲ有益トス

攻擊ノ際自己ノ占領シタル陣地ヲ堅固ニスルノ材料トシテ機關砲ハ物質上及無形

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

上他ニ代ヘ難キ兵器タリ

劍及槍ハ其構造ノ柔軟、適不適等ヲ論外トシ單ニ兵器トシテ刺突及斬擊ニモ充分滿足シ得ヘキコトヲ證明セリ

砲手ノ長劍ハ絶對的不適當ナリ(運動ノ敏捷ヲ阻害ス)故ニ短劍ニ變更スルヲ要ス

某工兵將校ノ案出セル手擲彈ハ(長サ十「ウエルショーク」ノ柄ヲ有シ綿火藥裝置ニ雷汞ノ擊突ヲ以テ爆發ス)左ノ點ニ於テ不滿足ナリ

(一)安全座及準備座ニ彈頭ヲ裝置スルコト複雜ニシテ夜間及戰鬪中ハ其裝置困難ナリ

(二)彈頭部ヲ下向シテ墜落セサルコトアリ

現ニ二月二十日羅馬屯ニ於テ「ムツエンスキー」聯隊ノ乘馬偵察隊ノ投シタル手擲彈ノ多數ハ爆發セサリキ

(三)柄長キニ失シ密集隊形ニアリテハ之ヲ振リ廻ハスコト能ハス爆發ノ効果ハ強大ナルモ更ニ一層簡便ナル構造ヲ要ス、日本軍ノ球形手擲彈(直徑二吋ヲ少ク缺ク)ハ好箇ノ模形タラン

攻擊(高粱畑、夜間及掩壕ノ背後等ヨリ)及敵ノ突擊ヲ擊退(敵兵既ニ接近シタル時)ス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ル場合ニ日本式ノ手擲彈ハ偉大ノ効力ヲ有ス(其効力ハ主トシテ士氣ノ點ニアリ)

第二　被服及裝具

被服及裝具ニ關スル此意見ハ歩兵第三十五師團ニ於テ師團長「ドブルジンスキー」中將ヲ委員長トシ該師團高級指揮官ヨリ成ル調査委員會ニ於テ決セラレタルモノトス一般ノ意見ニ於テハ二種ノ服裝ヲ必要トセリ戰時及平時ノ二種トス

平時服ハ外觀ヲ華美ニシテ年少者ニ軍役希望ノ念慮ヲ誘起セシメ又下士卒ヲシテ自然ニ方正ナル品行ト端正ナル姿勢ヲ保タシムルニ在リ

戰時服ハ之ニ異ナリ主トシテ戰時ノ要求ニ適合セシムルヲ要ス故ニ第一ノ要件ハ裝着ト戰鬪動作ニ便ナラシムルニアリ

戰時服裝ノ具備スヘキ性能ハ左ノ如シ

(一)軍衣袖口ノ方ヲ狹クシ立襟トナシ(釦二個)又彈藥時計、軍隊手牒、磁石、呼子等ヲ納ルヽ爲メ衣嚢ヲ四個トス(內二個ハ脇ニ他ノ二個ハ胸部)

軍衣ノ色合　藍色ヲ廢シ「カーキー」色ヲ可トス

地質　冬服ハ絨製、夏服ハ「カーキ」織ノ厚地綿布

(二)袴　軍衣ト同一ノ色合トナシ從來ノ腹卷ノ代リニ廣キ絨製ノ廣キ帶ヲ附着スヘ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

シ(下士卒ハ以前ノ腹巻ヲ好マス遺失スルコト多シ)

絨製ノ廣キ帶ヲ附スルモ之ヲ洗濯スルニ何等ノ困難ナシ現ニ下士卒ハ現今容易ニ絨製ノ袴ヲ洗濯シツヽアリ

(三)服ヲ立襟トセハ襟飾ハ無用ナリ加フルニ着脱ノ際ニ於ケル煩雜ヲ除却スルコトヲ得

(四)帽

(イ)夏帽ノ色合ハ軍衣ト同一ニシ輕ク柔軟ナル帽庇及横帶ヲ附着ス

(ロ)冬帽ハ絨製トシ(色ハ軍衣ト同一ニス)小サキ頤紐ト耳覆トヲ有スルヲ可トス

聯隊ヲ區別スル爲メ金屬製番號ヲ附スルモ可ナリ

毛皮帽ハ重ク、其長キ毛ハ射擊ニ不便ニシテ觀測ヲ妨ケ又色合黑ク形狀大ナル爲メ敵ニ發見サレ易キ不利アリ現ニ損害ヲ少カラシムル爲メ鼠色ノ帽覆ヲ施スニ到レリ此手段ハ沙河陣地戰ノ際大ナル利益ヲ與ヘタリ

(五)厚地絨製ノ軍衣ヲ採用スルトキハ現用ノ外套ニ比スレハ厚地ノ輕便ナル上衣ヲ外套トシテ(色合ハ帽ト同一ニス)使用スルコトヲ得

但シ戰時用防寒被服ハ其形恰モ裾ナク袖ト帽覆トヲ有スル外被ニ類スルヲ以テ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一層便利ナルヘキモ之ヲ以テ禮裝用冬外套ニ使用スヘカラス

現在ノ着脱式帽覆ハ之ヲ廢スヘシ

(六)襟章、肩章及帽章ハ各歩兵共皆同一ノ色トナスヲ可トス實驗ニ徴スルニ補充被服ハ其色及記號トモ各種ノモノ混淆セリ

今之ヲ改裝スルニハ數多ノ時日ヲ要スルノミナラス現在ニテハ材料缺乏シ同色ノ絨ヲ多ク買上ルコト能ハス

以上ノ理由ニ據リ從來ノ如ク型紙ニ着色ノ記號ヲ附スルコトノ代リニ金屬製記號ヲ使用スルヲ可トス

滿洲ニ於テハ適合セル色ノ羅沙ト顔料トヲ購求シ得サリシヲ以テ前者ハ綿布ヲ使用シ後者ニハ墨汁ヲ代用シタリシカ遂ニ變色又ハ脱色セリ

以上ノ方法ニ據ルトキハ補充トシテ到達セル肩章ヲ廢物トスルノ要ナク又其豫備材料ヲ輸送スルニモ既ニ製造シタル豫備品ヲ輸送スルヨリ一層容易ナリ加フルニ同一ノ色トナストキハ平時ニ於テ非常豫備品ヲ新ニシ又動員ノ際被服ヲ交附スルニモ頗ル簡便ナリ

(七)革帶ハ從來ノ扣金ヲ廢シ騎兵式ト同一ナラシムルヲ要ス現時ノ重キ複雜ナル扣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

金ハ不適當ナリ

(八)携帶彈藥具

(イ)從來ノ革帶ニ裝着セル硬キ革製ノ彈藥盒ハ之ヲ廢シ各四十發乃至六十發ヲ容ル油布製彈藥囊ニ改正スルヲ要ス但革帶ハ從來ノモノヨリ廣ク丈夫ナルヲ可トス

(ロ)胸部彈藥盒(六十發)

(ハ)又腰部ノ革帶ニ六十發ノ革製ノ豫備彈藥囊ヲ携帶スヘシ

但シ挿彈子ハ交互轉倒シテ納ムヘシ

右ノ彈藥囊ニハ少許ノ油、磨布及螺旋廻ヲ容ルヘキ餘地ヲ存セシムヘシ

戰鬪ノ際油ハ必要缺クヘカラサル品トス之レ遊底汚染シタルトキ一、二滴ノ油ヲ腔線ニ注入スルトキハ其開閉甚タ容易ナレハナリ

兵器ヲ正シク使用スル爲メ必要ナル材料ヲ一括シテ左右ニ備フルノ便利ナルハ敢テ言ヲ要セス加フルニ戰鬪間重キ裝具(彈藥囊)ヲ脫スルコトハ適當ノ所置ニアラス

(二)布製彈藥囊ハ地質弱ク絕ヘス動搖シ之カ爲メ下士卒ヲシテ不安ノ念ヲ起サシム故ニ前記ノ豫備彈藥囊ト改ムヘシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(ホ)水筒、實驗ニヨルニ我木製水筒ハ清潔ヲ保ツコト難ク又炎暑ノ際ニハ不潔ノ爲メ容水直チニ腐敗ス故ニ茶碗ニ代用シ得ル口附ノ「アルミニユーム」製水筒(被布附)ニ改ムヘシ

斯ル器物ノ必要ヨリシテ戰鬪間自然ニ「水呑」テウ裝具ヲ增加セリ然レトモ雜嚢、水筒又ハ鞍嚢中戛々タル其音ハ餘リ體裁宜キモノニアラス

(九)我「アルミニユーム」製飯盒ハ品質粗惡ナル爲メナランカ鹽分ヲ煮炊シタルトキハ酸味ヲ生シ且ツ堅牢ナラス

更ニ一層適當ナルハ騎兵式ニヨル鍍錫式鐵製又ハ銅製飯盒トス

(十)裝具中堅牢ナル輕便匙ヲ有スルコトハ最モ必要ナリ

木製ノ匙ハ折レ易ク又戰地ニ於テ購求スルハ頗ル困難ナリ

(十一)雜嚢ハ之ヲ廢シ匡ナキ柔軟ナル(油布製)背嚢ニ改メ兩肩ヨリ背ニ負フヲ可トス

(十二)防寒具

(イ)手套トシテ最モ適當ナルハ五本ノ指ヲ有スル毛織製手套ニシテ其外部ニ二本指ノ絨製手套(拇指及食指)ヲ蓋フヲ可トス

(ロ)比較的高價ニシテ重ク且ツ品質良好ナラサル毛皮製半外套ハ之ヲ廢シ寧ロ外套

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノ下ニ毛皮製胴着(綿入胴着ニテモ可ナリ)ヲ着用スレハ價格及効用ノ點ニ於テモ大ニ利益アリ

袴ニハ綿入ノ裏地ヲ附スルヲ要ス

(十三) 携帶器具

十字鍬ハ總テノ點ニ於テ充分滿足シ得タリ然レトモ更ニ堅牢ナル金具ヲ用ユレハ一層良好ナリ

手斧ハ輕キニ失シ且ツ柄ハ破損シ易シ

故ニ一層堅牢ナル金具ト柄トヲ有スル工兵用輕便斧ニ改正スルヲ可トス

現時ニ於ケル戰鬪ノ狀況ヨリセハ中隊ニ八十挺ノ十字鍬ニテハ其數少キニ失ス故ニ兵卒ニハ悉ク之ヲ携帶セシメサルヘカラス現今ノ戰鬪ニ於テ中隊ニ器具ヲ交付スルコトヲ惜ムハ其理由ヲ知ルニ苦ム今日ニ於テハ榴霰彈ノ射界ニ入リタル者ハ豫備隊ト雖トモ皆掩體ヲ構築セサルヘカラサルニアラスヤ

手斧モ亦屢々必要アリ故ニ曹長ヲ除キ中隊ニ於ケル總テノ下士、皷手及看護手ニモ之ヲ支給スルヲ要ス

携帶器具中必要ノ材料ニ就テハ後又之ヲ說明セン然レトモ若干ノ圓匙ヲ備ヘ付ク

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ルハ必要ノ事ニシテ軟土、石土及非常ニ乾燥シタル土地ニ於テ作業スル際大ナル利益アリ

又各中隊ニ疊鋸一挺ヲ備ヘ付クルヲ要ス

第三　脚具

脚具ニ關スル事ハ行軍上主要ノ問題ナルヲ以テ吾人ハ章ヲ別チテ記載セン

現時ニ於ケル官給靴ノ是非ニ就テハ既ニ世ニ定論アリ故ニ吾人ハ唯改良スヘキ點ヲ指摘スルニ止メン

現時ニ於ケル靴ハ更ニ輕便且ツ堅牢ニシテ速ニ乾燥シ易キ半靴ニ改ムヘシトハ一般ニ唱導スル所タリ此目的ニ最モ適當ナルハ卷脚絆或ハ他ノ裝置ヲ以テ脚部ニ密着セシムル半靴トス但シ其材料ハ布、油布、革脚絆或ハ一層實用的方法ヲ用ヰ袴ニ裝着スルニ無用ノ手數ヲ要セサルヲ可トス

靴及踵ノ材料ハ精良ナル革ヲ用ユヘシ

前記ノ輕便靴ヲ採用スルニシテモ覆靴ヲ廢スル能ハス蓋シ後者ハ休憩、露營及脚部ヲ磨擦スル等ニ必要ナリ

若シ精良ナル革ヲ用ヰテ半靴ヲ調製セハ豫備靴及豫備裏革ヲ要セス假令兵卒ハ自

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

身ニ修理材料ヲ携帯スルモ靴工具ハ大行李ニアルヲ以テ實用ニ適セス

豫備靴及補修材料ハ必要ナリ然レトモ是等ハ聯隊經理部ニ於テ保管セサルヘカラス

黑革ノ長靴ハ手入ノ爲メ兵卒ニ大ナル勞苦ヲ與フルヲ以テ赤革ノ長靴ヲ支給スト雖トモ良好ナル靴墨ヲ得ルコト難ク又粗惡ナル墨ニテハ徒ニ靴ヲ損スルノミ實驗ニ徵スルニ假ヒ靴墨ヲ塗ラサルモ充分繻シタル良好ノ革ハ毫モ塗リタル物ニ劣ルコトナシ

加フルニ塗色シテ外觀ヲ保タンニハ靴墨ト靴刷毛トヲ要シ從テ重量ヲ增加スルヲ以テ寧ロ之ヲ廢シ其代リニ他ノ軍用品ヲ携帯セシムルヲ可トス戰爭ニ於テハ外觀ノ如何ヲ論スルコト能ハサルナリ冬期ハ絨製ノ靴ヲ必要トス然レトモ從來ノ如ク僅カニ二三週間ニシテ破損スル物ヲ廢シ一足ニテ全冬期間ニ堪ユル如キ良好ナルモノヲ用ヰサルヘカラス

絨製ノ靴ヲ使用スル時期ニハ夏期用短靴ハ後方ノ倉庫ニ保管スヘシ

概言スルニ被服、裝具、及脚具ハ戰時ノ要求ニ適應セル簡便ナル物ヲ使用シ又其修理材料ハ特ニ調製セスシテ有合品ヲ調辨使用スルヲ可トス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

使用期限ヨリ打算シテ材料及構造ノ堅牢ナルコトヲ主義トスルヲ要ス

我國人曰ハスヤ安價物買ノ金失ヒト吾人ハ斯ク富者ニアラス

第四　糧食

一　口糧

肉ノ給與ハ一人ニ對シ一日一「フント」ニテ充分ナリト雖モ最モ便利ナル分配法ハ晝食ニ(口糧トシテ)四分ノ三「フント」又夕食ニ(副食物トシテ)四分ノ一「フント」ヲ給與スルヲ可トス、

冬期經理部ヨリ給與セル西伯利製凍肉ハ品質良好ニシテ土地ノ生肉ニ勝レリ

牛肉ノ三分一ヲ豚肉ニ改ムルヲ要ス之レ口腹ノ慾ヲ滿足セシムル爲メトス

經理部ニ於テハ二月ヨリ時々鹽漬ノ牛肉ヲ給與セリ然レトモ此給與ハ冬期ノミヲ可トス蓋シ冬期ニハ鹽分ノ溶解ヨリ生ズル腐敗ノ惧ナキカ爲メトス然レトモ冬期ニ於テモ鹽漬牛肉ニ代フルニ一週間一回生肉ヲ以テスルヲ希望ス鹽魚ニ就テモ亦然リ

麵包、若シ製粉ノ素質良好ナル場合ニハ(滋養分少ナキ無用ノ混合物ナキ場合ニハ)一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日ノ給與二「フント」四分ノ一乃至二「フント」ニテモ充分ナリ

重燒麵包モ敢テ不可ナルニアラサルモ充分ノ希望ヲ云ハシムレハ更ニ滋養分ニ富ミタル精良ノ海軍用乾麵包ニスヘシトハ一般ノ意見ナリ

茶ハ現時規定ノ量ニテ充分ナルモ砂糖ハ營養分豐富ナルヲ以テ麵包其他滋養分少ナキ食料ヲ減スル爲メ一日一人八乃至九「ゾロトニク」ヲ支給スルヲ要ス

粗蕎麥粉ハ粥ノ調査用トシテ適良ナリ其他加給品トシテ粗麥粉ノ支給(一日一人ニ二乃至三「ゾロトニク」ヲ「スープ」ニ混和スヘキ麥粉ナキ場合)ヲ必要トス

粗黍粉ハ無味且ツ滋養分ニ乏シ高粱粗粉ハ前者ヨリ味アルモ之ヲ煮炊スルニハ蕎麥粉ニ比シテ一層多クノ時間ヲ要ス食事調査ノ際百人ニ對シ葱十本、蒜十本及赤香椒四、五本ヲ定規ニ支給スルハ最モ必要ナリ

一一 炊事

麵包、今回ノ戰役ニ於テハ經理部及軍隊ニ於テ麵包ヲ製造セリ而シテ前者ハ主トシテ移動製麵包所ニ製造ヲ命シタリ

經理部麵包ハ常ニ品質良好ナラサリキ

正當ニ麵包ヲ支給スルコトノ問題ハ全然軍團經理部職員ノ如何ニ關ス蓋シ煩雜ナ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ル手續ナク熱心ニ作業セル經理部ニハ常ニ充分ナル麵包ヲ有シタルニアラスヤ
甲ノ軍團ニ於テハ麵包ノ支給ヲ受クル爲メ常ニ傳票ヲ發シ其支給不充分ナル爲メ
軍團長ニ對シテ不平ヲ唱ヘツヽアルニ係ハラス一方ニ於テ乙ノ軍團經理部ハ當ニ
自己ノ所屬部隊ニ給與シタルノミナラス他ノ部隊ニモ麵包ヲ支給セリ
千九百四年ノ七月安平ニ於テハ第三十五師團ノ各部隊ハ第十軍團ノ製麵包所ヨリ
又沙河對陣ノ際ハ聯隊舍營司令官ハ奉天ノ製麵包所ヨリ麵包ヲ受領シツヽアルノ
時我製麵包所ハ「イングア」村ニ於テ開設スルノ準備ヲナシタルノミニシテ終ニ開設
スルニ至ラサリシ
部隊製麵包所ハ多少ノ時日間軍隊一地ニ屯在シ且經理部ヨリ正確ニ麥粉ヲ受領シ
得ル時始メテ設置スルコトヲ得而シテ該製麵包所ノ麵包ハ品質甚タ良好ニシテ軍
隊ハ充分ノ量ヲ受領シ得タリ然レトモ此場合ニ於テ軍團經理部ノ職員カ軍隊ニ對
シ麥粉ヲ規則正シク充分支給シタルコトヲ一言セサルヲ得ス
圓麵包ヲ各個ニ製造セントシタルハ左ノ點ニ於テ不結果ニ終レリ即チ原料及燃料
ノ費消大ニシテ製品良好ナラス
最良ノ方法ハ製麵包業務ニ熟練ナル下士卒ヲ炊事掛トナシ小隊毎ニ製麵包セシム

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ルニアリ圓麵包ハ一人約一「プート」乃至一「プート」半ヲ受領セリ然レトモ此方法ハ餘リ滿足シ得ヘキ事ニアラス各個炊事ハ左ノ點ニ於テ全然不適當ナリ即チ行軍ノ際貴重ナル休憩時間ヲ剝奪シ少シク監督ヲ怠ルトキハ半燒ノモノヲ食シテ胃ヲ損シ又勤務激シキ時或ハ少シク怠ルトキハ食スヘキ麵包ヲ有セス

煮沸品

第三十五師團ノ各部隊ニ於テハ露國ヨリ出征ノ第一日ヨリ「プルーン」式行軍庖厨車ニ於テ煮炊セリ故ニ該軍ノ性能ニ就テハ諸種ノ方面ヨリ研究シ甚タ良好ナルコトヲ證明セリ

現時ノ如キ戰爭ノ狀態ニアリテ特ニ滿洲ノ泥道ヲ行進スル場合ニ軍隊ニ對シ適時ニ食事ヲ供給シ得ルハ獨リ行軍庖厨車アルノミ該車ノ効力ニヨリ戰鬪間第一線ニアリテモ煮炊物ヲ供給シ得タリ而シテ行軍庖厨車ハ聯隊豫備隊ノ先頭又ハ繃帶所ノ先頭ニ於テ行進シ此處ニ煮炊物ヲ樽ニ詰メ駱駝又ハ騾馬ニ駄載シテ更ニ轉送セリ又該車ハ堅牢ノ點ニ於テモ試驗セラレタリ即チ一年間少許ノ修繕ヲ施シタルモ多クハ燃料ノ不良ヨリ生シタル破損トス(即チ燒損シタル格子ヲ修繕セリ)

我庖厨車ヲシテ更ニ一層完全ナラシムルニハ前匡ノ代リニ粥釜ヲ具備スルヲ要ス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

今回ノ戰役ニ於テ粥ハ鐵製支那釜ニテ炊事セリ清國ニ於テハ各戸ニ必ス斯ル釜ヲ有スルモ他ノ土地ニアリテ恐ク斯ル準備ナカルヘシ

現在ノ庖厨車ハ碎石道ニアリテハ二頭曳ニテ充分ナルモ泥土ノ土地ニアリテハ(戰爭ノ際ハ斯ル土地ヲモ運動ス)三頭ノ輓馬トモ二輪車ト爲スヲ要ス

今回ノ戰役ニ於ケル實驗ニ據ルニ行軍庖厨車ヲ定規ノ輜重車ニ採用スル事ハ敢テ一ノ異論ヲ挾ムノ餘地ナシ

計算上庖厨車ハ一聯隊二十輛ヲ要ス即チ

野戰隊用十六輛、非戰隊用一輛、徒歩及乘馬偵察隊用二輛、豫備一輛

飯盒炊事ノ場合ニハ左ノ缺點ヲ自認セサルヲ得ス

第一、自然ニ掠奪行爲ニ陷リ易キコト(加味器、野菜及薪等)

第二、下士卒ヲシテ生煮ノ物ヲ口ニセサル爲メ絶ヘス監督ヲ要ス

第三、多クノ時間ト材料トヲ要ス

庖厨車ニ於テハ斯ルコトナシ

然レトモ茶ヲ煮沸スル場合ニ飯盒ハ大ナル効力ヲ有セリ下士卒ハ甚タ之ヲ愛好シ炊事場ノ煮沸水ヨリモ寧ロ飯盒ニテ煮沸シタル者ヲ好メリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

野菜、馬鈴薯等ハ到底何時ニテモ到ル處ニ於テ之ヲ得ルコト能ハス故ニ動員當時歩兵第三十五師團ノ第一旅團ニ於テ實行セル如ク乾燥甘藍及菓物(壓搾ニアラス)ヲ調製シタル方法ハ一般ニ採用スルヲ要ス

是等ハ一人ニ對シ一晝夜六「ゾロトニク」ニテ充分ナリ二「プード」入ノ一壜ヲ有セハ如何ナル場合ニ於テモ戰時編成ノ一中隊ニ對シ優ニ五、六日間ヲ支ヘ得ラル

行軍ノ際師團ノ所屬聯隊ハ是等ノ菓物ヲ露國ヘ注文セリ(「ヤロスラーリ」縣「ロストーフ」市「アシャニーン」)甘藍ハ一「プード」十留「プローシュチ」(植物ノ名)八留〇五十、馬鈴薯土地ニ於テ)七留ニシテ十一月十日ニ注文シタル菓物ハ三月三十日ニ受領セリ

三　馬糧

馬匹モ人類ニ等シク速ニ各種ノ食物ニ慣レ意ヲ用キテ漸次ニ之ヲ變更スルトキハ何等ノ害ナキコトヲ實驗シ得タリ

馬匹ハ高粱、粟殼及藁ヲ好ンテ食ス但シ一日ノ支給量ハ粟八乃至十二「フント」、高粱十二乃至十五「フント」、藁二十「フント」ヲ適度トス

枯草及燕麥或ハ大麥ハ我邦ノ規定量ニテ充分ナリ實際ニ於テハ之ヲ減シ得ルモ定量トシテ現今ノ支給量ヲ可トス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

粟殼ハ細切シテ與フルヲ可トス之ニ高粱、粟等ヲ混合スルトキハ馬匹ノ嗜好ニ投スルコト一層速カナリ

切殼ニ少量ノ鹽(一頭ニ對シ一日二乃至三「ゾロトニク」)ヲ加フルトキハ一層馬匹ノ嗜好ニ適ス

高粱殼及豆(粒豆)ハ馬糧トシテハ不適當ナリ蓋シ前者ハ營養分乏シク又後者ハ馬匹ノ嗜好ニ適セス故ニ是等ヲ馬糧トナスノ可否ハ馬匹保護ノ點ヨリ大ニ熟慮セサルヘカラス一時或部隊ニ於テ斯カル馬糧ヲ使用シタルコトハ實ニ馬疫流行ノ一大原因ト爲レリ

四　土地ノ物資利用

滿洲ニ於ケル今回ノ戰場ハ昨年度(千九百四年)收穫物悉ク土地ニ現在シタル爲メ吾人ニ對シ大ニ給養ノ問題ヲ容易ナラシメタリ

軍隊ノ所在地ヨリ二十五露里乃至四十露里遠隔セル地方ニ在テハ困難ナカラモ五月ノ候仍ホ現地ニ於テ馬糧ヲ蒐集シ得タリ而シテ芻秣ノ追送全ク必要トナリシハ五月ノ下旬以降トス四平街ノ線以北ノ戰區(遼河マテ)ニ於テハ高粱、粟、豆糟、粟殼及高粱殼ヲ以テ二ケ月以上軍隊ヲ給養シ又奉天及鐵嶺間ノ戰區ニ於テハ更ニ多クノ時

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日(約四ケ月)ヲ給養シ得タリ之レ現地給養ノ大要ヲ示シタルニ過キス更ニ地方ノ物資利用法ヲ整備シタランニハ以上ノ兩戰區ニ於テハ一層長日月間軍隊ヲ給養シ得タリシナラン但シ奉天鐵嶺間ノ戰區ニ於テハ沙河對陣ノ際既ニ物資ノ購買ヲ爲シタル地區タルヲ記憶セサル可ラス

實際徵發區域ノ配當不充分ナリシヲ以テ軍ハ十二月ニ到リテ之ヲ規定セント試ミタルモ既ニ其機ヲ失シ從テ多クノ土地ニ於テハ購買スヘキ何等ノ物資ヲモ有セサリキ之レ其初期ニ於テ將來ヲ顧慮セス掠奪的行爲ヲ冒シタル爲トス現ニ九月中渾河ト沙河ノ中間地域ニ於テハ馬匹飼養隊ハ隨意ニ馬糧ヲ苅取リ且ツ粟畑及豆畑等ヲ蹂躪シタルコトアリ、各部隊ハ毫モ他隊ヲ顧慮スルコトナク任意ニ徵發ヲ行ヒタル爲メ未タ甲ノ部隊ニ於テ豫備糧秣ヲ使用セサルニ先タチ乙ノ部隊(後ニ到着セル部隊ヲモ含ム)ニ於テハ各個炊爨用ノ高粱殼スラ得ルコト能ハサル場合アリシ、奉天ニ於テハ粟殼一「ブード」ニ對シ一留乃至一留半ヲ支拂ヘリ(九月ニハ僅カニ一「ブード」十乃至十二哥ニテ購求シ得タリ)

地方物資徵發區域ヲ適時ニ確定スルト同時ニ一方ニ於テ住民ノ奸手段ヲ豫防スル爲メ各軍團ノ區域內ニ評價委員ヲ指定シテ物資ノ價格ヲ定メ之ヲ住民ニ布告スル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ハ非常ニ必要ノ事トス

滿洲駐在ノ文官ト協力シテ徵發ヲ行フハ彼等ノ支那語ニ通セサルト又住民ニ信用ナキト加フルニ通譯ニ信賴シ難キトノ諸種ノ原因ニ依リ彼等ノ勢力旺ナラサリシ場合ニハ此方法ニ據ラス購買掛ト住民トノ間ニ於テ直接ニ現物ノ取引ヲ爲セリ故ニ價格ハ同村内ニ於テモ著シク相違アリタリ

五. 經理機關

今回ノ戰場ハ歐露ヨリ著シク遠隔シ交通線トシテハ僅ニ一條ノ鐵道ヲ有スルニ過キサリシヲ以テ經理上非常ノ困難ヲ感シタリ故ニ此問題ヲ研究スルニモ前記ノ事情ヲ度外視スル能ハス

斯ル事情ノ下ニ於テ經理部ハ絶對的必要ニシテ且ツ現地ニ於テ購買シ得ラレサル物品ヲ適時ニ供給シ得タルニ依テ之ヲ觀レハ其機關ノ頗ル宏大ナリシ點ニ就テハ充分恕スヘキ餘地ヲ存ス

然レトモ亦一方ニ於テ部隊ニ對シ生存上至要ノ物品スラ供給シ得ラレサル前記ノ事情ハ勢ヒ部隊ノ經理機關ヲシテ軍團經理部ニ代リ熱心ニ業務ヲ處理スルヲ必要トスルニ至レリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

吾人ハ麵包ノ支給ニ就テ前ニ開述シタル如ク經理部ヨリ支給スル物品(麵包、麥粉、粗粉、燕麥、大麥、枯草、肉等)ヲ正シク適當ノ時期ニ部隊ニ支給スルト否トハ實ニ軍團經理部員ノ能否如何ニアリ徒ラニ手續ニ拘泥セス又其部員熱心以テ部隊ノ要求ニ應スル經理部ハ適時ニ充分ノ物品ヲ支給シ得タリ

又部隊ニ於テモ經理部ヲ援助スル爲メ有ユル手段ヲ盡シ大行李ハ時々四十乃至六十露里ヲ通過シタルコト珍シカラス故ニ軍團經理部ヨリ招致セラレタル輜重ニシテ空車ノ儘歸還シタルカ如キハ之レ部隊ノ過失ニアラスシテ軍團經理部カ徒ラニ手續ヲ墨守シ常ニ給與ノ時機ヲ逸シタルニ基因スルモノト云ハサルヘカラス

現ニ第十七軍團經理部ノ如キハ之カ爲メ毎週各聯隊ヨリ中隊ノ數、輸送材料及豫備運搬材料ニ關スル報告ヲ要求シタリト雖トモ是等ノ報告ハ何等ノ効力ヲ有スルモノニアラス何トナレハ聯隊ノ人員ハ毎日三十名乃至百五十名ノ變更ヲ來スノミナラス特殊ノ變更即チ戰鬪ニ基因スル人員ノ變更ハ毎週報告ヲ要スル程屢々起ルモノニアラサレハナリ

吾人ノ意見ニ因ルニ經理部ハ宜シク部隊ノ要求ニ應シテ充分ニ支給シ其消費如何ハ命令ヲ以テ出納ヲ査閲スルヲ可トス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

抑モ高等經理部ナルモノハ各部隊ヨリ出ス毎週ノ不確實ナル報告ニ據リ諸般ノ準備ヲ爲スニアラスシテ定員ヲ標準トシテ諸準備ヲ爲スモノニアラスヤ故ニ此一事ヲ以テスルモ吾人ノ意見ノ至當ナルヲ知ルニ足ラン又部隊ト雖トモ徒ラニ不必要ノ物品ヲ受領シ之ヲ帳簿ニ記入シナカラ其物品ヲ徒ニ棄却スルノ愚ヲナサンヤ軍隊ハ寡クトモ此點ニ就キ未タ非難ヲ受ケタルコトナシ之ニ反シ經理部ハ其倉庫ノ火災ニ際シ當局者ニシテ少シク豪膽ニ處置セハ罹災ノ難ヲ免レ得ヘキ物品ヲ時々燒失セルコトアリ故ニ無用ノ手續(傳票及受領書等)ヲ爲スハ畢竟軍隊ニ支給スルヲ惜ミナカラ之ヲ空シク風火ニ施恤シタルモノト云フモ敢テ過言ニ非ルヘシ

吾人ハ更ニ一層有力ナル例ヲ示サンニ十月十三日我軍ハ「イングア」村ニ於テ倉庫ニ火ヲ失シ麥粉、茶、砂糖、粟殼等ノ多額ヲ燒却セリ然ルニ此村落ニハ我軍隊ハ翌年三月五日迄駐屯セルニアラスヤ、夫ノ統計學ナルモノハ業務ヲ阻害セサル如ク有利ニ之ヲ應用スル場合ニ於テハ良好ノ方法ニ相違ナキモ否ラサレハ何等ノ効力ナキ陳腐ノ歴史的材料ニ過キス

又倉庫モ既ニ甲ニ支給シタルノ故ヲ以テ乙ノ要求ニ應セサル(倉庫中ニ現在スル物品ヲ)如キコトアランカ其害曷ンソ前者ト擇フ所アラン

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

各部隊ハ等シク陛下ノ臣民ニシテ殆ント皆同一ノ任務ヲ有ス故ニ倉庫ヲ部隊ノ人員ニ應シテ配當シ其集積物ハ之ヲ部隊ニ支給スルニ先立チ部隊ノ所有ト爲スハ實ニ至當ノ手段ニアラスヤ若シ斯カル狀況ノ下ニアリテ自己ノ過失ニヨリ倉庫内ノ物品ヲ腐敗セシムル如キコトアラハ部隊ハ喜ンテ賠償ノ責ニ任セン

總テ是等ノ失錯並ニ或倉庫ニ於テ秤量ヲ有セサリシ等ノ過失ハ手續ヲ簡ニシ少シク職務ニ意ヲ用キハ容易ニ之ヲ免レ得ヘシ

故ニ經理部タルモノハ經理機關ノ職員ヲ撰擇スルニ達眼ニシテ諸般ノ業務ニ通曉シ且ツ職務ニ忠實ナル者ヲ以テセハ近キ將來ニ於テ斯カル失態ヲ再演スルカ如キコト無カルヘシ是等ノ事ハ素ヨリ瑣事ニ過キタルモ之カ爲メ輜重ハ無益ノ運動ヲナシ又兵卒ハ屢々饑渴ニ苦ムニアラスヤ

規定ノ受渡手續ニ關シテハ一般ノ意見ニヨリ討議ニ附セサリキ

括論

我軍ニ於テ諸兵種ニ物品ヲ支給スル手續上特ニ戰時ニ於テ著シク不便ヲ感スルハ豫備品ヲ夫々當該機關ニ配當スルニ當リ支給スヘキ物品ノ性質如何ニ因ラスシテ製品材料ノ如何ニヨリ配當スル之レナリ今之ヲ例證センニ銃ハ砲兵部ニ於テ製造

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

シ之ヲ支給スルモ負革ハ經理部ニ於テシ又彈藥及拳銃ハ砲兵部ヨリスルモ彈藥盒及雜嚢ハ經理部ノ手ヲ經、十字鍬及手斧ハ工兵部ニ於テ取扱フモ其蓋革ハ經理部ニ於テシ、軍刀ハ砲兵部ニ於テスルモ其刀帶ハ經理部ニ於テスルカ如キヲ云フ故ニ軍刀ヲ受領スルモ刀帶ナク、又十字鍬ヲ支給セラレタルモ蓋革ヲ受領スルマテ之ヲ帶革ニ挾ミ携帶スル等ノ不便ヲ生ス

一ヶ所ニ於テ多數ノ物品ヲ製造スルハ政府ニ幾分ノ利益アルヘキモ斯ノ如キハ業務及給與上不便寡カラサルヲ以テ將來ハ此方法ヲ改ムルヲ要ス

五　野戰工兵材料

吾人ハ材料篇ヲ終ルニ臨ミ電話、輕氣球及探照燈ノ事ニ就キ數言セン

陣地戰ノ場合ニ於テ電話ハ偉大ノ効力ヲ有ス就中電鈴式電話器ハ最モ適良ナルコトヲ證明セリ然レトモ前哨用電話器ハ感能鈍ク之カ爲メ勢ヒ高聲ヲ發シ「ズウズウ」タル音響高ク大ニ談話ヲ阻害スル等全然不適當ナリ最近ニ到リ調聲式(?)電話器ヲ受領セルモ未タ其可否ヲ試驗スルニ至ラス

電話手ヲ養成スルニハ步兵及砲兵ノ何レニ於テモ何等ノ困難ヲ感セサリシ

實驗ニ因ルニ電話ハ各部(司令部、聯隊、砲兵中隊)ノ規定附屬品トナシ聯隊及師團司令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部ニハ電話所三乃至四ヶ所、輕便被覆線十露里又砲兵大隊ニハ電話所三乃至四ヶ所、被覆線六露里ノ割合ニテ準備スルヲ要ス、現今電信中隊ノ有スル材料(八十五露里)ハ、軍團司令部ノ專有物トシテハ充分ナリ

今回ノ戰役ニ於テハ常ニ通信材料ノ缺乏ヲ感セリ即チ步兵及砲兵ニハ電話器ヲ有セス又準備スルニセヨ其數寡ク(電話所二ヶ所、電話線六露里ニ過キス此等ハ皆各部隊ノ經費ニテ求メタルモノトス)軍團ノ材料ヲ野戰司令部ニ轉用シタル如キ狀況ナリキ

電話ヲ野戰ニ使用スルハ聯隊及師團其他師團ト比隣師團司令部トノ間ニ止メ置キ夫レ以上ノ高級司令部ニハ電信ヲ以テ連絡スルヲ可トス否ラサレハ高級司令部ハ電話ニヨリ總テノ電話所ト談話シ得ルカ故ニ自然ニ多クノ事ヲ知リテ萬事ヲ指導スルニ到ル其結果ハ各隊ノ獨斷專行ノ能力ヲ妨ク命令百出シテ徒ラニ紛擾ヲ生シ又直屬長官ヲ差措キテ發令スル等ノ害アリ

各軍團ニハ輕氣球ヲ備フヘシ某輕氣球大隊ハ瓦斯製造機ヲ有セサリシ爲メ二月ノ十七日ヨリ作業ヲ中止シタルコトアリ故ニ斯ル失錯ヲ再演セサル爲メ必要ノ器具ヲ具備セサルヘカラス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

偵察用トシテ我輕氣球ハ良好ナリ殊ニ現時ノ戰鬪ニ於テハ輕氣球觀察ハ頗ル偉大ノ効力ヲ有ス

沙河對陣ノ際我軍ハ探照燈ヲ利用セサリキ但シ蘇家屯停車場ノ「プラットフオーム」ニハ若干ノ探照燈ヲ有セリ然レトモ漢城堡ノ後方ニ於テ僅カニ一回使用シ失敗ヲ演シ(味方ノ掩壕ヲ照セリ)爾來其影ヲ止メサルニ至レリ

是等ノ器械ハ何人ノ指揮ニ屬シタルヤ吾人之ヲ知ラスト雖トモ之ヲ利用スルニ到ラサリシ原因ヲ探究スルノ必要アリ吾人ノ希望ヲ述ヘシムレハ探照燈ハ宜シク軍團長ノ指揮ニ屬セシメ又一地ニアリテ使用スル際ニハ地區司令官即チ師團長ニ屬セシムルヲ可トス否ラサレハ狀況ニ通セサル結果徒ニ危害ヲ招クニ過キス敵ノ探照燈ハ殆ント闇夜ノ時ノミ使用セラレ之カ爲メ我軍ノ陣地作業及偵察隊ノ勤務ハ著シク阻害セラレタリ

輜重ノ編成ト其利用ニ就テハ追テ之ヲ說明スルコトヽシ吾人ハ今左ノ事ヲ證言セン即チ二輪車ハ總テノ點ニ於テ良好ナルコトヲ表證セリト (以下次號)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp